

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名		都留文科大学		設置者名	公立大学法人 都留文科大学			
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成22年度)			
学部	学科等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業 者数	免許状 取得者数		教員 就職者数
						実数	個別	
文学部	初等教育学科	180人	小一種免	平成2年度	213人	213人	213人	111人
	国文学科	120人	中一種免(国語)	平成2年度	124人	75人	49人	19人
			高一種免(国語)	平成2年度			73人	
	英文学科	120人	中一種免(英語)	平成2年度	128人	73人	60人	31人
			高一種免(英語)	平成2年度			73人	
	社会学科	150人	中一種免(社会)	平成2年度	134人	67人	56人	15人
			高一種免(地理歴史)	平成2年度			41人	
高一種免(公民)			平成2年度	42人				
入学定員合計		570人	合計		599人	428人	607人	176人
大学名		都留文科大学(専攻科)		設置者名	公立大学法人 都留文科大学			
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成22年度)			
専攻科	学科等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業 者数	免許状 取得者数		教員 就職者数
						実数	個別	
文学専攻科	教育学専攻	10人	小専修免	平成3年度	8人	8人	8人	8人
入学定員合計		10人	合計		8人	8人	8人	8人

大学名		都留文科大学(大学院)		設置者名	公立大学法人 都留文科大学			
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成22年度)			
研究科	学科等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員 就職者数
						実数	個別	
文学研究科	臨床教育実践学専攻	5人	小専修免	平成15年度	6人	6人	5人	5人
			中専修免(国語)	平成15年度			2人	
			中専修免(社会)	平成15年度			1人	
			中専修免(数学)	平成15年度			0人	
			中専修免(理科)	平成15年度			0人	
			中専修免(音楽)	平成15年度			0人	
			中専修免(美術)	平成15年度			0人	
			中専修免(保健体育)	平成15年度			0人	
			中専修免(保健)	平成15年度			0人	
			中専修免(技術)	平成15年度			0人	
			中専修免(家庭)	平成15年度			0人	
			中専修免(職業)	平成15年度			0人	
			中専修免(職業指導)	平成15年度			0人	
			中専修免(英語)	平成15年度			0人	
			中専修免(ドイツ語)	平成15年度			0人	
			中専修免(フランス語)	平成15年度			0人	
			中専修免(中国語)	平成15年度			0人	
			中専修免(朝鮮語)	平成15年度			0人	
			中専修免(スペイン語)	平成15年度			0人	
			中専修免(宗教)	平成15年度			0人	
			高専修免(国語)	平成15年度			1人	
			高専修免(地理歴史)	平成15年度			0人	
			高専修免(公民)	平成15年度			1人	
			高専修免(数学)	平成15年度			0人	
			高専修免(理科)	平成15年度			0人	
			高専修免(音楽)	平成15年度			0人	
			高専修免(美術)	平成15年度			0人	
			高専修免(工芸)	平成15年度			0人	
			高専修免(書道)	平成15年度			0人	
			高専修免(保健体育)	平成15年度			0人	
			高専修免(保健)	平成15年度			0人	
			高専修免(看護)	平成15年度			0人	
			高専修免(家庭)	平成15年度			0人	
			高専修免(情報)	平成15年度			0人	
			高専修免(農業)	平成15年度			0人	
			高専修免(工業)	平成15年度			0人	
			高専修免(商業)	平成15年度			0人	
			高専修免(水産)	平成15年度			0人	
			高専修免(福祉)	平成15年度			0人	
			高専修免(商船)	平成15年度			0人	
			高専修免(職業指導)	平成15年度			0人	
			高専修免(英語)	平成15年度			0人	
			高専修免(ドイツ語)	平成15年度			0人	
高専修免(フランス語)	平成15年度	0人						
高専修免(中国語)	平成15年度	0人						
高専修免(朝鮮語)	平成15年度	0人						
高専修免(スペイン語)	平成15年度	0人						
高専修免(宗教)	平成15年度	0人						

国文学専攻	5人	中専修免(国語)	平成7年度	3人	2人	2人	2人	
		高専修免(国語)	平成7年度			2人		
	社会学地域社会研究専攻	5人	中専修免(社会)	平成7年度	3人	0人	0人	0人
			高専修免(地理歴史)	平成7年度			0人	
			高専修免(公民)	平成7年度			0人	
	英語英米文学専攻	5人	中専修免(英語)	平成10年度	4人	3人	3人	3人
高専修免(英語)			平成10年度	3人				
入学定員合計		20人	合計	16人	11人	20人	10人	
備考	<p>・「学部・学科等の名称等」欄は、平成23年4月1日現在の名称・定員である。</p> <p>・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数である。</p>							

実地視察大学に対する講評

実地視察日：平成24年1月18日（水）

実地視察大学：都留文科大学

実地視察委員：岸田正幸委員、高岡信也委員

■ 大学の教員養成に対する全般的な状況

<状況>

（大学）

- ・大学では1学部4学科、大学院では1研究科4専攻で教員養成を行っている。（その他）
- ・専攻科で教員養成を行っている。

<講評>

- ・教員養成に関する教育課程、教員組織等については、全般的に基準を満たしており、良好に実施されている。
- ・引き続き、教員養成の水準の維持・向上に努めること。

■ 教員養成に対する理念、設置の趣旨等の状況

<状況>

- ・「きめ細やかな教育指導のできる人材、広い視野と確かな教養、豊かな人間性と高い授業技術を身に付けた教育のエキスパート」を目指すべき教員像としている。
- ・教員を育てるために基本的な考え方として「研究する力」を掲げ、この力を身に付けさせるという方針でカリキュラムを形成している。

<講評>

- ・教員を養成するという目標を明確に持って全学をあげて大学運営を行っている。
- ・現場の課題を理論化させるための「研究力量」をベースにして、大学全体の教員養成の理念を明確にしている。
- ・地元学校と緊密に連携を図り、理論と実践の往還及び個々の学生の課題に対応可能な教職カリキュラムの改革を行っている。
- ・小学校教員養成に係る初等教育学科のみならず、国文学科、英文学科、社会学科においても、学校現場を経験したことのある教員や教科教育を専門とする教員が複数配置されており、それぞれの学位課程の中で教員養成を意識した教育が行われている。

■ 教育課程（教職に関する科目等）、履修方法及びシラバスの状況

<講評>

- ・教職に関する科目（特に「教育の基礎理論に関する科目」）について、幅広い科目を開設していることは評価できるが、一方で、学生が学ぶべき内容に偏りが生じる恐れや、教授すべき内容として必要な事項が欠落する恐れがあることから、最低限学生が学ぶべき内容等について整理をすること。同時に、少人数体制で授業を実施できる体制を整備すること。

■ 教育実習の取組状況

<状況>

- ・市内の協力校や、教育委員会を通じて実習校の確保に努めているが、9割が母校実習である。

<講評>

- ・協力校の確保、附属学校の積極的な活用に努めてもらいたい。

■ 学校現場体験・学校ボランティア活動などの取組状況

<状況>

- ・放課後活動の援助や授業支援、特別支援教育支援などの活動を授業として位置づけている。授業以外にも多くの活動を実施している。

■ 教職指導及びその指導体制の状況

<状況>

- ・各年次に対して年度の初めにガイダンスを行っている。
- ・教職を志す学生及び学校現場のニーズに応えるために教職実践演習等の各科目の工夫に努めている姿勢が見られる。課程認定大学にとって先進的取組となるよう、引き続きカリキュラム開発に努めてもらいたい。

■ 教員養成カリキュラム委員会などの全学的組織の状況

<状況>

- ・教職課程に対する全学組織として「教員養成カリキュラム委員会」があり、教育実習と介護等体験以外の教職課程に関する事項の全般について審議し、方針を決定している。

■ 施設・設備（図書等を含む。）の状況

<講評>

- ・図書館の教職に関する図書、雑誌は充実している。教科書は全て最新のものがあり、また、教科書に掲載されている図書を教科書に出てくる順に配列し、教科書と掲載されている図書を隣接して開架するなど、学生への利便性が図られており、非常に高く評価できる。
- ・小学校教員養成のために自然科学棟、美術研究棟、音楽研究棟の各棟を整備しており、学生の学びの環境が整備されている。小学校教員を目指す学生の多くが文系出身であるという実態を踏まえ、今後、理科に強い教員の養成を図ってほしい。